

## Free Style

### 田原市民劇団「だもん de」キャストインタビュー

男女共同参画フェスティバルにて、新しい企画として取り組んでいる田原市民劇団「だもん de」による演劇公演。出演者に、その思いを聞きました。

～インタビュー内容～

- ① 田原市民劇団に応募したきっかけ
- ② これまで参加してみた感想
- ③ 男女共同参画への思い
- ④ 市民の皆さんへの意気込み

#### 澤野芽生【配役：サナ】



① 昨年度の「だもん de」にも参加させていただきました。年齢や性別が異なる皆さんが集まり、一つのものをつくる、とても貴重な経験ができ、達成感や楽しかったという満足感を得ることができ今年も参加しました。

② 今年も、新たなメンバーも加わり、去年とは違った劇になります。私自身も、演じながら、皆さんと作り上げる劇がどんなものになるか、とても楽しみです、ワクワクしています。

③ 社会の授業などで、国が男女共同参画社会への実現に向けてさまざまな取り組みを行い、長い時間をかけ男女の不平等は無くなっていることを学んでいます。ですが、まだ男女差別や不平等についての報道や記事は無くなりません。性別の違いで理不尽に苦しめられる人がいなくなるよう、一人一人が意識を変えていけるように努力していくべきだと思います。

④ 来ていただいた皆さんに楽しんでもらえるよう、頑張ります！

#### 稲垣律子【配役：警官1】

① 5年程前に、あるお芝居に役者として出演したことをきっかけに、演劇にのめり込みました。その後、何度か豊橋や豊川で行われた市民劇に参加する中で、素晴らしい経験ができ、舞台のことをもっと学びたいと思いました。今回は生まれ育った地元で演劇を学べるチャンスがあるならと思い、応募しました。



② 稽古に参加してまだ数回ですが、毎回新しい発見があります。いろんな世代の人がいて、学校や仕事を終えてから夜に練習があるので、全員がそろえることは難し

いですが、できる人ができることをやっていく無理のないスタイルが「たはらっ子」に合っているのかも。

③ 差別はまだ世の中にあふれているけれど、マイノリティがマイノリティであるという側面にフォーカスされることなく、みんなが受け入れられる世の中になると良いと思います。

④ 人生100年時代を迎えた今、地域活動の活性化などを通じて、多くの人が知識や経験、さらに個性や能力を十分に生かし、生きがいを感じられるよう活動の場を広げていくことが重要だと感じます。市民劇を通して、年齢、性別、職業などにとらわれず、誰でも自分らしく輝けることをお伝えできればと思います。



#### 嶋田雅子【スタッフ】

① 昨年の劇団員募集の時も気になっていましたが、予定があったため諦め、演劇だけ観に行きました。今年も劇団員を募集していると知り、たまたま知り合った方が昨年の演劇に参加されていた方だったので、ご縁だと思い参加しました。

② 20～30代に演劇に関わってきましたが、家庭に入ってからからは全くその機会もなかったもので、久しぶりの本読みや、台本で皆さんが意見を交わす場に触れるだけでも、とてもワクワクしています。市民劇ならではの老若男女いろんな立場の人たちが楽しみながら、一つの作品をつくるという雰囲気がとても素晴らしく、ずっと存続してもらえたらと思います。

③ 男性と女性の違い、差異を壁と捉えずに、また、個性と捉え過ぎずに、お互いが自分と異なる立場の身になって想像し、思いやりを持てる社会になって欲しいと思います。

④ まだどんな仕上がりになるかわかりませんが、くすっと笑えるシーンがあって、印象に残る作品をつくれるよう、皆さんと頑張りたいと思います。